

## 靴の歴史散歩 ⑧4

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

西村勝三の向島須崎村一番地（現・墨田区向島5-8一带）の「櫻組製皮場」（後に向島櫻組製革所と呼称）は、明治4年（1871）から通算31年も存続していながら、現存する資料が極端に少なく、その片鱗すら伝わっていないから、幻の工場でもあった。

そんな工場の『櫻組製造品定價表』（写真参照）が、平成17年の暮れに神田の古書店で発見され、これを皮革産業資料館が購入するという好運に恵まれた。業界資料としては第一級の貴重本なので、遅まきながらの報告ではあるがご披露したい。

掲載の写真は、定價表の表紙である。左端の見事な筆致で書かれた「西村勝三 向島櫻組目録 明治廿年頃」という短冊形の貼り紙は、元もとのものではない。旧蔵者が発行年を推定し、心覚えに書いたものなので、誤解のないよう付記しておきたい。

発行年の推定は、明治20年の東京府工芸品共進会の受賞メダルが、表紙にデザインされていることが根拠と思われる。

明治23年の第三回内国勸業博覧会でも名誉賞というメダルを受けているのに、この表紙絵には載っていないから、明治23年以前ということになり、私の発行年推定でも同じところに落ち付かざるを得ない。

それにしても、お習字のお手本のような楷書には、あらためて最敬礼をしたくなる。

さて『櫻組製造品定價表』は、タテ20cm×ヨコ14cmで、今風にいえばほぼA5判タイプである。頁数は40頁あるから、情報量は多い。印刷は銅版印刷というところが、いかにも時代を感じさせる。

本の表紙裏の見返しに、築地一丁目の櫻組造靴場が上段に、下段には銀座三丁目の櫻組出張店（小売部）が銅版画で描かれている。この絵は、私の宝物である明治17年（1883）発行の『櫻組造靴場型録』（タテ17.5cm×ヨコ19cm）でも使われているので、その銅版画の再利用であることが分かる。17.5×19の型録の銅版画を、20×14の型録に再利用するために、やむなく絵の左端を五分の一カットしているの、絵が窮屈そうに見える。

当時の印刷技術では、原画の縮小や拡大はできなかったの、やむなくカットしたと解釈しているが、いかがであろうか。

櫻組の銅版画は、築地造靴場については「靴の歴史散歩」②⑩で、銀座出張店については、⑪と⑫の二回使わせていただいたから、ご記憶の方もあろうかと思っている。

（この項続く）

